

河内だより

㊦感謝 ㊦わかる喜び ㊦チームワークを育てよう

電話 651-1982 文責 校長 佐藤 信行

平成28年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の分析の概要

カテゴリー	学力調査の分析（傾向や特徴）
国語A	<ul style="list-style-type: none"> ・「言語についての知識・理解・技能」は、十分に習得できている。 ・昨年度課題であった「話すこと・聞くこと」についても、向上が見られた。 ・「読むこと」については、多少課題が残る。筆者の意図や作者の思いの根拠となる表現を読み取る学習を増やしていく必要がある。
国語B	<ul style="list-style-type: none"> ・目的を考えて読むことがよくできているが、意図に適したインタビューをすることや話し手の意図を聞き取ることに課題が残り、少人数の学級ではあるが、学習計画を工夫し、インタビュー等の機会を増やしていく必要がある。
算数A	<ul style="list-style-type: none"> ・「数と計算」領域の理解が高く、特に、四則計算が正しくできている。「数量関係」領域については、少し課題が残り、数量関係を視覚的にもとらえることができるように図や表を適切に使って、理解を深めていく必要がある。
算数B	<ul style="list-style-type: none"> ・数量や図形についての知識・理解や技能は身に付いているが、理由や説明を書くことに課題があり、表現方法（言葉・図・式）を意識した板書やノート指導により、考えを説明し合う算数的活動の充実を図ることが必要である。

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査の結果分析の概要

- ・ 自分の考えを書いたり、説明したりすることについて、肯定的な回答の割合が高まった。授業の中で、考えを表現する場を増やしてきた成果と考える。しかし、算数科の課題解決には至っていない。
- ・ 授業の最後に振り返る活動をよく行っているということについては、肯定的な回答の割合が低くなった。形式的になってしまい、振り返ることで1時間の学習をまとめることにつながっていない面がある。
- ・ 国語科の質問に対しては肯定的な回答の割合が高い、算数科の質問に対しては、問題に挑戦しようとする意欲の面で肯定的な回答の割合が低い。
- ・ 学校に決まりを守ることについての意識の向上が見られるとともに、友だちとの関係をよくしよう意識している。また、自己肯定感が高まり、将来の夢や目標をもって生活している。
- ・ 就寝時間やTV等の視聴時間など家庭での生活リズムには課題が残るが、宿題をはじめ家庭での学習を計画的に取り組む割合が高くなった。しかし、授業の予習復習をしている割合は低い。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組調

① 教科に関する取組

- 学力向上のための取組
 - ・ 朝自習～月曜日に視写・MIM、火曜日に読書、水曜日に学年の課題、金曜日に聞き取りに取り組みさせる。(木曜日は縦割り グループ活動)
 - ・ 放課後～木曜日の放課後に学力向上の時間(放課後ステップアップ)を設け、図形の学習に取り組みさせる。(基礎計算は1年生からの小プリント、言葉の学習はパソコンソフトを利用する。)
 - ・ タクシー待ちの時間～宿題、苦手問題の克服の時間にあてる。
 - ・ 宿題～本校で作成した「家庭学習の手引き」に従って保護者に協力を呼びかけ、学習習慣の定着を図る。(低学年:30分～45分、中学年:45分～60分、高学年:60分以上、自主学習ノートの推奨)
 - ・ その他～低学年については、多層指導モデル(MIM)を活用し、正確で速い音読の基礎を培う。
 - ・ 全学年を対象に、国語のフラッシュカードを使った言葉の学習に取り組みさせる。
- 「読む」・「書く」ことを習慣化
 - ・ 学習のめあて、まとめをすばやく書けるようにする。「1分以内」など、時間を決める。
 - ・ 国語では、文章の内容を読み深めることができるよう実態に応じた個への支援を行うとともに、読み取ったこと、感じたことを伝え合い、発表し合う活動を学習に位置付ける。
 - ・ 算数では、自力解決の場面で、式や答えだけでなく自分の考えを書く活動を位置付ける。また、図や言葉で書かせて説明させる。
- ビブリオバトルや音読発表の定例化
 - ・ 各学期に、全校児童でビブリオバトルを開催し、「話す・聞く」機会を充実する。少人数学級による課題の解決のため、学年での音読発表の機会を設ける。また、2学期は全校音読とし、敬老会で地域や保護者の方々に発表する。
- 読書習慣の定着
 - ・ 校内に「読書の木」を掲示し、200ページ読むごとに読書紹介の葉を貼るようにする。低・中・高学年で葉の色をかえ、1000ページ読み終えたらリンゴの実を貼るようにし、学年の実態を把握する。
- 河内フェスティバルでの発表
 - ・ 地域や保護者の方々に向けて学習発表の場を設けることで、資料活用能力の育成や表現力の向上を図る。
- 日常活動の充実
 - ・ 教室の言語環境の整備と充実～国語で学習した新しい言葉、表現などを掲示するコーナーを設ける。
 - ・ 学習の最後、3分間を「振り返りタイム」として、分かったことを中心に振り返りを書くことで1時間の学習の成果を自覚できるようにする。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 基本的な生活習慣の定着
 - ・ 予鈴を聞いて教室に戻り、時刻通りに朝自習や授業を始められるよう徹底することで、時間前行動が行えるようにする。また、授業の終わりに時間も守り、次の授業の始まりも時刻通りにできるようにする。
 - ・ いじめ防止サミットで採択された「0がつく日のあいさつ運動」に加え、日頃からタクシーの運転手、地域の方、来校者の方などへも進んであいさつが行えるよう指導する。
 - ・ 学校薬剤師や駐在所の警察官等身近な専門家をGTとして、規範意識を高める学習を各学期に位置付け実施する。
 - ・ 学級担任と養護教諭が連携し、児童の生活リズムの確立を図る学級指導を各学期に実施する。
 - ・ 「ほけんだより」「食育だより」を毎月発行し、早寝・早起きの習慣や朝食を取ることの大切さを継続的に啓発し、生活リズムの確立を図る。
- 家庭学習に向けての取組
 - ・ 「家庭学習チャレンジハンドブック」を十分活用してもらえよう、懇談会等を通じて保護者への啓発を図る。
 - ・ 自主学習ノートの活用、奨励
 - ・ 放課後、タクシーを待つ間に宿題に取り組み、わからないところを先生に聞いて、苦手問題の克服に努める。
- テレビやゲーム、携帯電話の使い方について
 - ・ 毎月23日のノーテレビ、ノーゲームデーの取組、これまで取り組んできた「携帯電話、スマートフォン夜10時オフ運動」を理事会等の場を活用し、保護者に呼びかけ、推進していく。